

愛知・尾張国府跡



(名古屋北部)

- 1 所在地 愛知県稲沢市国府宮町・松下町
- 2 調査期間 一九八一年(昭56)五月～一九八二年(昭57)三月
- 3 発掘機関 稲沢市教育委員会
- 4 発掘担当者 岩野見司
- 5 遺跡の種類 官衙跡
- 6 遺跡の年代 奈良・平安時代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要
尾張国府跡は、木曾川の支流三宅川が大きく蛇行する右岸の自然堤防上に立地し、標高六～七mを数える。

発掘調査は、一九七七年(昭52)度より毎年継続して実施しているが、直接政庁跡と断定できる遺構は検出されていない。しかし、乾元大宝の入った細頸瓶、緑釉円塔、各種陶硯など国府の所在地であった可能性を裏付け

る多種類の遺物が出土している。

一九八一年度の調査は、総社である尾張大国霊神社周辺の二か所で実施した。木簡を出土した稲沢市国府宮町大割では、柵一条、井戸一基、溝三条、近世土壇墓二基などが検出され、須恵器、土師器、灰釉陶器(陰刻文長方硯)、緑釉陶器、中国陶磁、中世陶器、土製品、石製品(石帯)、銅製品、鉄製品などが出土した。

木簡は、一二世紀に廃絶したと考えられる井戸(素掘り?)より出土した。

8 木簡の积文・内容

出土した木簡は一点で、両側面が欠損している。

・ []

・ []

97×(18)×1 011

一面は「の」、もう一面は「人」をそれぞれ連続して墨書したもののように見える。落書か習書の類であろう。

9 関係文献

稲沢市教育委員会

『尾張国府跡発掘調査報告書Ⅳ』

(稲沢市文化財調査報告Ⅴ)

一九八二年
(北條献示)